

## 国立大学法人の組織及び業務全般の見直しに向けて(概要)

～ 国立大学法人等の組織及び業務全般の見直し等に関するWG(審議まとめ)～

文部科学大臣は、中期目標期間終了時に国立大学法人の組織及び業務全般にわたる検討を行い、所要の措置を講ずるものとされている

これに先立って、国立大学法人評価委員会が有する課題意識を「組織及び業務全般の見直しに関する視点」として事前に示し、第4期中期目標期間に向けて、各法人による自主的な組織及び業務全般の見直しの検討を促すこととしている

今般の審議まとめは、視点の策定に向けたWGにおける審議を取りまとめたもの

### <見直しの基本的な方向性>

◇ デジタル化やグローバル化の進展、新型コロナウイルスの感染拡大による社会の変革に伴い、国立大学には、社会の変革を前向きに受け止め、新たな社会を見据えた大学の在り方を模索し、実現していくことが期待される。そのために、

- ・ 国立大学がこれまで担ってきた役割に加え、自らの特色や強みを更なる高みへと発展させながら、新たな社会で果たす役割を認識し、必要な機能を拡張
- ・ それぞれの特色や強みを連携・融合させながら、大学間のアライアンスを強化



高等教育機関として多様性に富んだレジリエンスを確立しながら、社会の活力を維持し、更なる発展を遂げるための原動力としての役割を果たす

### <組織の見直しに関する視点例>

- ・ 文理横断的・異分野融合的な知を備えた人材の育成に向けた教育研究組織改革
- ・ 教員養成系学部・教職大学院・附属学校が中心となった教員養成・研修機能の高度化
- ・ 大学間連携や学内資源の重点投資等を通じた柔軟かつ機動的な組織改革
- ・ 各大学のあるべき将来像の模索 等

### <業務全般の見直しに関する視点例>

- ・ 世界最高水準の教育研究環境の実現
- ・ デジタル技術の活用等による教育研究の質の向上
- ・ 地域の担い手の育成等による地域経済・社会の活性化
- ・ グローバルな教育研究環境の整備
- ・ 学長を中心としたガバナンスの強化、自律的な大学経営の実現 等

### 今後の予定

- ◇ 今後、文部科学省において、法人評価の実質化及び簡素化や法人経営に対する国の関与の在り方、国立大学への投資額の確保等について検討
- ◇ その検討状況等を踏まえつつ、本年中を目途に「見直しの視点」を最終とりまとめ